

東京都退職校長会



会報

発行所 東京都退職校長会
発行者 多田 丈夫

〒113-0034 文京区湯島4-12-3 日公連鈴木ビル5F
電話 03-5814-5615

東京都退職校長会ホームページ <http://www15.ocn.ne.jp/~totaikou/>

明けまして
おめでとうございます
会員の皆様のご多幸を
お祈り申し上げます

「事実、小説より奇なり」と申します。この頃の奇々怪々な出来事や不安定で騒々しい世相がやや心配です。新年の初詣は、すべての会員の安寧を祈り、安心・安全の世を願う役員全員で湯島天神を参拝しました。さて、本部の最重要課題は、今年も会員確保の問題です。現在の会員数は約三三〇〇名で、会員の減少傾向に歯止めがかからない現実がある



東京都退職校長会 会長 多田 丈夫

組織力を高め、飛躍の年に

課題解決を連帯の心で

ります。しかし、本会への入会率は、毎年、全退職者の40%程度に留まり、ほぼ100%近い他府県の実態と比べ、まだまだ入会促進の余地が残されていると考えています。「力を合わせて、会員確保を」との思いで元日を迎えた次第です。課題山積ですが、組織力を高め、飛躍の年にしたいと願っております。ここに、年頭の本部報告をいたします。

1. 実効性ある改革を求めて

去る11月7日付で業務改善・基金検討委員会から四つの諮問事項に対する「答申」をいただきました。その答申の核心は「会則を含む業務の

改善」に収斂されています。この解決を急ぐため、作業部会を直ちに設置し、実態に即した実効性ある改革に着手します。この作業部会では、論点整理、会則改正の準備、支部組織への周知、会員との合意形成、今後のスケジュール等が検討される予定です。私が先頭に立ち、答申に提示された重要課題の解決のために全力投球したいと思っています。

2. 魅力的な「東京大会」に向けて

二年後の平成30年に全国連合退職校長会 第四十七回関東甲信越地区退職校長会連絡協議会東京大会を開催する運びとなりました。この協議

会、一都九県で組織され、毎年持ち回りで開催されています。早々に、東京大会のための〈準備委員会〉を本部内に設置しました。準備委員会には、主に「実施に向けた企画立案をする」と共に、実施計画を大会実行委員会に提案する任務をお願いいたしました。半年の協議を経て、〈大会実行委員会〉が組織されます。この東京大会を通じて、綱領が詠う国際都市東京の教育に寄与する本会の姿が具現化できることを切に願っています。

3. 支部組織あつての本部

昨年の10月に開催された〈第二回

会員研修会〉は、やむなく入場制限をする盛況ぶりでした。満足度の高い研修内容や講師陣への関心が集まりました。開催に向け、会場確保に尽力いただいた北支部に感謝申し上げます。11月には、神奈川県支部のゴルフ部結成大会に参加。12月には、第五十六回練馬支部長寿・叙勲祝賀忘年会に出席。1月には、新宿支部、千葉南部支部、千葉西部支部、中野支部から新年会のお招きを受けています。東奔西走、和気藹々。その都度、底力のある各支部の動きに敬服している今日この頃です。共に元氣澁刺。今年も、よろしく願っています。

主な記事

P1 巻頭言	P7 秋の叙勲受章会員 高齢者叙勲受章会員
P2 全連退・群馬大会報告	P8 第二回会員研修会報告
P3 「第二回人材バンク登録者 対象講座」報告	P9 支部だより
P4 「平成28年度東京都採用前 実践的指導力養成講座」報告	P12 会員の声
P6 「業務改善・基金検討委員会」 報告(答申)	P15 湯島の動静表
	P16 物故者 応募コーナー 編集後記

テーマ「存在感ある校長会を目指して」 — 第四十五回 関東甲信越地区退職校長会 連絡協議会群馬大会の報告 —

平成二十八年度全国連合退職校長会 第四十五回関東甲信越地区退職校長会連絡協議会群馬大会が、好天に恵まれ、去る10月13日(木)と14日(金)の二日間、前橋市の前橋さくらホテルで開催された。関東地区一都九県から七十余名の役員並びに大会関係者が参加。東京からは代表として多田丈夫会長と黒田貞夫副会長、視察団として宇津木順一副会長と三辻陽夫事務局長の計四人が参加した。

初日の開会式は、開催県の石田和男群馬県退職校長会長の挨拶に始まり、笠原寛群馬県教育委員会教育長、佐藤博之前橋市教育委員会教育長、戸張敦雄全国連合退職校長会会長、群馬県小中学校校長会代表の挨拶が続いた。午後から協議題「存在感ある退職校長会を目指して」— 会員の交流活動と社会貢献活

動の推進 — を柱に研究協議が行われた。まず、黛啓一群馬大会実行委員長から協議題設定の説明があった。特に、「…社会構造や働き方の急激な変化に伴い、人々のものの考え方、価値観・生き方等にまで多大な影響を及ぼしている。また、定年後の働き方や生き方、人生観・価値観等が多様化し、退職校長会においても会員相互の人間関係や連帯意識の希薄化、入会率の低下傾向等様々な問題が生じてきている。このような現状を踏まえ、退職校長会としての存在意義を再認識し、組織の充実・活性化を図る活動の在り方を探り、具体策を講ずることは大切なことである。」との発表から参加者一同が課題意識を共有した。引き続き、「協議会発表資料」に基づき各都県の具体的な取り組みについて発表と協

議が行われた。各都道府県からの様々な実情が紹介され、共通のテーマに迫る熱心な質疑応答が交わされた。休憩をはさんで記念撮影が行われ懇親会に移った。群馬県の会員によるアトラクション〈オークラウロの演奏〉が披露され、あたたかい群馬県のおもてなしをいただいた。

二日目の研修は、世界遺産富岡製糸場の見学が計画された。富岡製糸場と絹産業遺産群を観ながら生糸が結んだ世界との絆を深く学べた一日であった。周到に準備された全日程を終え、参加者一同、新潟大会での再会を約し散会した。第四十六回新潟大会は、平成29年10月12日(木)〜13日(金)が予定されている。



主催側挨拶



多田会長以下東京都からの参加者

尚、平成30年の第四十七回関東甲信越地区退職校長会連絡協議会は東京大会となっている。この準備のため、本部では二年間にわたって開催県に視察団を派遣することとした。また、去る12月5日の正副会長会で、準備委員長 藤井誠一(事務局付)、企画担当委員長 黒田貞夫(副会長会代表)、企画担当委員 森俊一郎(支部長会代表)、同、守屋龍男(企画委員会代表)、同、藤崎武利(理事代表)、同、三辻陽夫(事務局長)の六名の各氏が会長より指名委嘱され、東京大会準備委員会が発足した。

(文責 多田 丈夫)

平成二十八年度 東京都教育庁からの受託事業 「第二回 人材バンク登録者対象講座」報告

人材バンク受託事業運営特別委員会

東京都教育庁から本会が受託した都教育庁人材バンク事業の業務は、(一)外部人材活用に関する相談及び普及広報業務、(二)登録者育成に関する業務、(三)外部人材活用連絡会の運営である。

本事業は、都教育庁の施策の一つとして位置付けられ、学校における課題が複雑化・多様化する中で、外部人材を供給することにより、学校がより教育活動に専念できる環境をつくり教育内容の向上を図ることを目的に実施する事業である。



第1回外部人材活用連絡会

1 相談・普及広報活動の遂行

本業務では、アドバイザーが担当地区の教育委員会、校長会、副校長会等を年間十回訪問している。但し、後期には新任校長校、新任副校長校の学校訪問でもよいこととした。地区内の学校の人材紹介の依頼に応じた適任者を人材バンクが情報提供し、相談・普及広報活動を行っている。その活動により、人材利用した学校からは、「適切な人材紹介で教育内容の向上につながった」との感謝の声が届いている。また、人事部発行の人材バンクニュースを各学校に提供した結果、人材活用に対する理解が深まり、学校からの人材紹介実績が増しているとの人事部の評価で示されている。

大学への訪問活動では、十八大学に本会会員の従事者が講座

の学生を対象に、ボランティア活動の募集案内を提供し、働き掛けている。従事者の意見・提言・感想は年度内に報告される。

2 登録者対象講座の充実

本年度の人材バンク登録者対象講座は、第一回が7月23日(土)、第二回が9月24日(土)に東京都教職員研修センターで行われた。

登録者を対象とした資質向上を図るための講座開催である。都教育庁と綿密な打合せが行われて実施された。

講座後の運営特別委員会では、二回の登録者講座を改めて振り返り、受講者のアンケート結果の分析・考察の内容について討議した。その結果、人材バンク登録者に「各校種の児童生徒の実態や接し方の基本」、「学校の現況について情報提供」の内容は好評であった。但し、「教育課題とその対応策【例 体罰、いじめ等】」、「ボランティア体験談」に二回とも受講者から

多くの回答があった。そこで、本委員会では「第一回登録者対象講座をボランティア活動未経験者を中心とした研修内容とし、第二回登録者対象講座をボランティア体験者を中心とした研修内容にしてはどうか」との提案が出された。

本年度は受講者が大幅に増加した。それは、受講経験者への受容を認めた都教委の工夫があったことによるものである。

3 外部人材活用連絡会の運営

本業務は、人材バンク事業が効果的かつ円滑に活用されるよう検討することを目的としている。

第一回外部人材活用連絡会は6月1日(水)に開催され、アドバイザー業務の共通理解を図った。第二回は、1月25日(水)午後2時より、東京都教職員研修センターで開催された。アドバイザーの地区別協議で「本年度の活動と今後の課題」をグループ討議した。その成果が期待される。

(文責 林 忠義)

平成二十八年年度

東京都採用前実践的指導力養成講座報告

—採用前研修事業受託委員会— 桑原利夫

東京都教育委員会から委託された本講座は、今年で四回目となる。「団塊世代」教員の大量定年に伴い、新規採用教員が二千名を超えて採用され続けている現状で、新たに出現した課題への対応策として企画されたものである。それは、難関を乗り越え、晴れて教壇に立ったはずの新規採用教員のうち百名余の者が、毎年、教職に自信を失う等の理由で教壇を去る残念な事態が続いたためという。

そこで、東京都教育委員会は四月スタートの採用予定者対象に「直前研修」を実施し、学校生活に具体的なイメージと見通しをもち確実な一歩を踏み出させるようにと考え、本講座の開始に着手した。研修内容は、①全体講座研修（都教委が主体の「実践的に学ぶ学習指導・学級経営」「実践的に学ぶ特別支援教育」等）と②採用予定者が校

種別に都内公立学校訪問校に向いて一日学校訪問研修を行うこととのセット研修とした。その際、特に後者の研修では、採用予定者MAX十名に一名の指導講師を充て、密度の濃い研修をと考えた。ちなみに本年度の学校訪問校（本講座の趣旨を理解した都内公立の全校種から協力を募り、それに応じてくれた学校）の数は、小学校八十一校・中学校五十二校・高等学校四十五校・特別支援学校二十二校の計二百校である。この学校訪問には、それぞれ採用予定者が二組編成で出向くので、指導講師も一校に二名の配置となる。従って、指導講師数は二名×二百校＝四百名（延べ人数）が必要となる。都教育委員会は、この指導講師数の多さと講師の適格性を考慮し、都退職校長会の組織力・実行力・会員数の多さ等々に着眼、事業委託してきた。

本事業を受託した都退職校長会では、本部として「採用前研修事業受託委員会」を次のメンバー（全十五名）で組織した。

- ・委員長 多田丈夫（会長）
- ・小学校（※校種別責任者）
- ※桑原利夫・阿久津洲美男
- 藤井誠一・塚野 征
- ・中学校
- ※宇津木順一・前田 烈
- 工藤豊太・三辻陽夫
- ・高等学校
- ※平島 満・天沼照夫
- 澤海富保
- ・特別支援学校
- ※落合 勇・大南英明
- 小林 進

そして、本年度の本事業を所管する都教委（都教職員研修センター担当者）と七月から定期的な会合を重ね、研修実施までの諸準備を進めてきた。この準備の中でも、採用予定者数と学校訪問校数が判明してからわずか二週間余の期間内に、小学校一六二名、中学校一〇四名、高等学校九十名、特別支援学校に四十四名という指導講師採しは

至難の作業である。そこで、昨年度から、都退職校長会の組織力を活かすことにし、今年度も10月24日（月）の支部長会で各支部長に第一次の指導講師採しの協力を依頼し、各支部から推薦をお願いすることにした。各支部長は、この難題にご理解いただき適任者の推薦に努力していただけたことに、本部として心から感謝申し上げる次第である。それでも、特に指導講師数の多い小中学校では、第二次作業として約三分の一の欠員数が出て、本部対応として担当者の人脈頼りの個別折衝を行った。この働き掛けに、快諾していただけた指導講師に心から感謝申し上げたい。

なお、この指導講師の選任要件は、次の三点である。

- ①都公立学校における教職及び教育管理職経験を有する者
- ②都教委の教育目標を理解し、学校教育における諸課題への見識を有する者
- ③心身共に健康であり、営利を目的とせず、教育への熱意を

もって採用候補者への指導に当たれると期待できる者

※退職校長会として考慮した選任要件としては、右記に加えて、原則として年齢六十五歳～七十五歳、訪問校の属する校種における管理職経験者、訪問校の所在する地域に勤務経験を有する者か居住する者この準備作業と並行して「講師用『指導ガイドブック』」改訂作業も行った。このガイドブック作成の意図は、本事業理解の参考資料として、指導講師の職務内容の明確化と各内容における配慮事項、受講者への指導のポイント等を示し、スムーズかつ的確な職務遂行を期待してのものである。

この改訂作業には本部の以下のメンバーが携わった。

〈講師用「指導ガイドブック」改訂委員会〉（※責任者）

・委員長 多田丈夫（会長）
・委員

※桑原利夫・宇津木順一

三辻陽夫・平島 満

落合 勇

以上のような準備のもとに、都研修センターを会場に11月24日（木）・25日（金）の午後3時～4時15分（4時15分～5時は校種別打ち合わせ）の計画で全指導講師対象に本講座の事前説明会を都教委主催で次のような内容で行った。

・挨拶 都研修センター研修部
授業力向上課

課長 堀田直樹
都退職校長会

会長 多田丈夫

・事業の概要について
都研修センター研修部授業力
向上課

統括指導主事 守屋光輝

・講師の業務内容について

①業務の留意事項について

都退職校長会 宇津木順一

②講師用「指導ガイドブック」の活用について
都退職校長会 桑原利夫

・当日の運営の実際について
都研修センター

研修部授業力 向上課

指導主事 橋本 修

全指導講師が本講座の趣旨等を理解した上で、左記の日程で今年度の本講座の実質的な研修が実施された。

〈Aコース〉

12／11（日） 全体講座

（講義・演習）

午前10時～

帝京平成大学

沖永ホール

12／15（木）

午前8時30分～
（授業参観等）

都内公立学校

12／16（金）

学校体験

（授業参観等）

午前8時30分～

都内公立学校

〈Cコース〉（関東地方以外居住者及び社会人対象）

12／18（日） 全体講座

（講義・演習）

午前10時～

学校体験

12／19（月）

午前8時30分～
（授業参観等）

都内公立学校

〈Bコース〉

1／15（日） 全体講座

（講義・演習）

午前10時～

帝京平成大学

沖永ホール

1／16（月）

午前8時30分～
（授業参観等）

学校体験

1／17（火）

午前8時30分～
（授業参観等）

学校体験

本講座終了後に、毎回、採用予定者の研修を終えての感想として「全体講座で学んだことを学校訪問での実際の指導や子ども姿で見られたことはよかった」「学校のリアルな姿を目にして教師になる意欲が湧いてきた」「指導のポイントのアドバースが具体的に自信につながった」「早く教壇に立ちたい」等々の声が聞かれて、改めて本講座実施の意義を実感した。

また、改めて本講座に携わった都退職校長会会員の皆様のご協力に感謝申し上げます。

「業務改善・基金検討委員会報告（答申）」を提出

委員長 宇津木順一

本委員会では、昨年九月から十八回の委員会を開き、会長からの諮問事項について鋭意検討してきた。一年間余にわたる検討結果を報告書にまとめ、十一月七日、会長に「業務改善・基金検討委員会報告（答申）」を提出した。併せて資料として、会則改正案等を提出した。報告（答申）の内容の一部及びその考え方などについて、諮問事項に沿って報告する。

◇諮問事項第1「会則を含む業務の改善について」

業務改善の視点から、まず会則について検討した。会則の見直しに当たっては、会則改正から年数を経ており、会の運営、活動の実態とそぐわなくなっているところがあること、会員数が大きく減少してきていること、それに伴い会費収入の減が進んでおり組織運営の簡素化や事業

の精選が必要であること、などを踏まえて検討した。

・理事会の設置と位置付け

現在、各支部から一名の理事が選出され、各部に所属し事業活動を進めているが、この理事を運営委員と改め、各部の運営委員の互選により選出される各部の部長を理事とする。また、本部と支部の連携協力を一層密にするため、支部長代表を理事に加え、会長、副会長、各支部長、支部長代表、事務局長で理事会を構成し、組織運営、事業活動推進の要として理事会を位置付けた。

・新入会員の支部所属

会則には、会員は、「居住地域の支部に所属する」とあるが、勤務していた学校のある地域の支部になじみが深いということから、居住地の支部に所属するほか、併せて、勤務してい

た学校のある地域の支部に所属し、積極的に活動している会員も多い。この現状から、入会の際、居住する地域の支部、または勤務した学校のある地域の支部のどちらかを選択して所属できるように改め、一層会員意識を高め、積極的な活動を促すようにする。同時に、将来的には、二つの支部に所属する会員の負担の軽減にもつながるものと考ええる。ただし、当面、新入会員のみに適用するようにする。

なお、この件については会報一九一号（二八・一二八）「報告（一）」で、改正した場合の問題点を考慮し、現状通りとするのが妥当である旨の報告をしているが、その後、検討を重ねた結果、実態を踏まえ右のような結論に達したものである。

・新しい会員制度の導入

現在、再任用制度などで定年を迎えた多くの校長は、定年前とほぼ同様に勤務しており、退職という意識は薄く、また、現

職同様の業務のため、退職校長会の活動に積極的に参加することも難しいと考えられる。実際、定年を迎えた校長の入会者が少ないのが現状である。そこで、新たに「準会員制度」を設け、会費を軽減するなどして入会を促し、退職校長会について理解を深められるようにする。ただし、準会員は定年後の五年間を限度とし、再任用等が終わった段階で、会員としての入会をお願いする。

そのほか、会則に関しては、支部長の評議員との兼任、支部の改廃・設置等に関する規定を定めるなどのほか、従来の「内規」を、会則を補う細則として「規程」と改め、内容についても一部改正した。

◇諮問事項第2「会員減少に伴う支部組織の在り方について」

各支部には、それぞれ独自の支部結成の精神とともに、伝統に基づく組織運営体制があり、会員減少に伴う支部組織の在り

方については、基本的には各支部の主體的な取組により改革を進めることが肝要である。

・支部間交流と会員勧誘組織

その上で、今後特に、研修、クラブ活動など、支部間交流を活発にし、将来的には、会員は、どの支部の活動にも自由に参加できるような条件整備が必要である。また、支部組織内に、新入会員勧誘の組織を作り、会員確保の体制の充実を図ることが大切であるとした。

◇諮問事項第3「基金と今後の用途について」

・基金の使途の明確化
「基金に関する内規」に変えて、新たに「特別会計に関する規程」を設け、特別会計の中の一つを、事務所設置等積立基本金とし、①本会の事務局を置く事務所の設置の経費に充てる、②本会の運営に関わる緊急事態に対応する経費に充てる、と明記して、使途を明確にした。

◇諮問事項第4「その他、緊急

を要する事項」

緊急を要する課題として、会員減少の問題があり、併せて、会員減に伴う会費収入減の問題がある。このことから、会員増強と事業の精選による財政の健全化を緊急を要する課題としてとらえ検討した。会員の確保については、先に記した会員の所属支部の扱いの改正と準会員制度の導入が、会員増強につながると考える。

・事業の精選と財政の健全化
財政の健全化については、本部でなければ実施できない事業、本部で行うべき事業の観点から本部事業の精選、組織運営の簡素化を図り、会の性格を踏まえて、計画的、段階的に財政の健全化を図るようにした。

紙面の事情から「報告（答申）」の一部について紹介した。この報告（答申）が会員各位の理解を得て、本会の組織運営、事業活動の改善、推進に活かされるよう委員一同願っている。

平成28年 秋の叙勲受章会員

栄えのご受章お祝い申し上げます。 計15名（敬称略）

瑞宝小綬章 3名

寺崎 千秋（練 馬）
伊藤駿二郎（北多摩北部）
藤崎 武利（千葉南部）

瑞宝双光章 12名

佐々木 賢（文 京）

高橋 康平（葛 飾）

立石 昌（中 野）

舘 比佐男（八王子）

佐野 志郎（調 布）

森田 豊（西多摩）

八木 光次（西多摩）

菊地 桂（三宅島）

佐々木立雄（千葉北部）

宇都野 徹（埼 玉）

藤井 誠一（埼 玉）

加藤 光一（神奈川）

高齢者叙勲受章会員

栄えのご受章お祝い申し上げます。 計6名（敬称略）

瑞宝双光章 6名

佐久間 清（品 川）

小林 雍雄（足 立）

村澤 裕重（世田谷）

和田 民雄（武蔵野・三鷹）

山之内 登（足 立）

大野 勝弘（埼 玉）

平成二十八年年度第二回会員研修会 生涯学習部

いきいき人生三元気の出る集い

―支部における文化的活動の報告会―

本年度の第二回会員研修会は、平成28年11月21日（月）午後2時から「北とぴあ」で行われた。

参加者は五十一名。内容は本会支部活動の報告会で、三支部から活動内容や魅力等について報告と実技があった。参加者全員での作品作り等あり変化に富み、楽しい報告会となった。各支部活動への理解を深めるとともに、「生き生き人生の実践」として各支部の参考になり、互いに啓発することができた。

以下、概要を報告する。

一 開会の言葉 齋藤徳蔵

二 会長挨拶 多田丈夫

ご多用の中、準備そして参加された皆様に感謝いたします。

本日の支部の発表を楽しむとともに、明日の豊かさに生かしていただきたい。本部のテーマとして「支部あつての本部」を掲げていますが、「本部と支部の

一体化」が深化するよう期待しています。

三 活動報告

① 千代田・中央支部

「地域から学ぶ中央区の歴史」

鈴木正孝

主に石川島・佃島・夢の島について、資料と大変分かり易いパワーポイントを活用して、中央区の歴史について詳しく解説していただき、改めて中央区の地名やその由来と歴史が理解でき取り組みの大切さを感じた。

① 石川島、佃島、夢の島

① 東京湾には埋め立てではない自然の土地はあったのか。

・石川島が、人足寄場であった。

② 家康は佃の漁民になぜ埋め立てを許可したのだろうか。

・本能寺の変で、淀川の支流を渡る際に漁民に助けられた。

・軍事的な意味で獵師と書く？

③ 幕末の頃なぜ石川島は代表的な造船所になったのか

・ペリーの浦賀来航、危機意識の中、軍艦等を製造していた。

④ 江戸の町を守るために品川沖にお台場を建設した。

・越中島で軍事訓練をした。

・関口水道町で鉄製大砲を作る。等、江川太郎左衛門が活躍。

⑤ 佃大橋、勝鬨橋、相生橋、中央大橋、築地大橋などの橋

が一番早く架かったのか。

・相生橋（明治三十六年）

⑥ 月島とは

・築地↓築島↓月島ではないか。明治二十五年佃島の南の砂州を埋め立てた。月島は若い。

◎なぜ埋め立てか

・航路の確保、廃棄物・残土等の捨て場、新しい土地の確保。

⑦ 「夢の島」の夢とは

・昭和十四年に飛行場建設のために埋め立てられた。

② 何と読むのでしょうか

（抜粋）

蛤、蜆、蝦、牡蠣、蛸、田螺

③ まとめ

大規模開発等、未来の街

◎発表を終えて

・自分の住む地域の歴史を学ぶ



発表者

渡辺和則・鎌田敏雄・鈴木正孝

ことによって地域をより深く知り、地域に愛着を持てると思った。・支部活動は、定例会、ウォーキングの会（文京・新宿支部）ネパール女性教師育成、短歌の会等の活動である。

② 北多摩中部支部

「製本クラブの活動と

ブックカバー作り」

鎌田敏雄・保泉亜弥子

資料をもとに、北多摩中部支部の活動や歴史についての紹介があり、製本クラブの活動を参加者全員で体験した。文庫本用のブックカバー作りにひとつひとつ丁寧にご指導をいただきながら、実技の時間を夢中で取り組んだ。真剣な時間を過ごし、何とかブックカバーが完成した。



北多摩中部支部
ブックカバー作成風景

皆さん嬉しそうに、戴いた豆本とともに大切に持ち帰った。

材料や道具類の準備と片付け、懇切なご指導に感謝します。

(1) 材料

裏打ちした布地（縦19cm、横38cm）、ブックカバー型紙

(2) 用意するもの

定規、カッターナイフ、目打ち、木工用ボンド、筆洗、水彩用の平筆、カッターマット等

(3) 作り方

①型紙を裏返しに置き、上に裏打ちをした布地を重ねる。②両面テープの裏紙を一枚ずつ剥がして張り合わせる。③赤線に定規をあてカッターナイフで切り取る。④黒線に定規をあて、目打ちで折り目線を引く。⑤両面テープを剥がして型紙を取り除く。⑥すべての折り目線を内側

に折り、また広げる。⑦必要な箇所すべてにボンドをつけ、しばらく押さえる。⑧フリーサイズのブックカバーの完成。文庫本にかける。

③ 八王子支部

「八王子支部のクラブ活動」

渡辺和則・永井廣治

辻野宗行・森川 亮

八王子支部活動の概要説明とクラブ活動の報告が行われた。美しく整理されたパワーポイントを活用し、とても楽しく分かり易かった。

(1) ゴルフクラブ

平成三年に第一回、二十一年には第一〇〇回記念大会を行った。二十五年からはオープンコンペも行っている。会員数は三十三名で活動も活発である。

(2) マジッククラブ

平成十三年八名で発足。現在の会員数は五名。月例会、ボランティア出演、全員発表と活動している。会員を増やしたい。

(3) 水墨画クラブ

平成十三年発足。六人の会員で月例会を実施。支部総会会場

や退公連作品展に出席している。

(4) パソコンクラブ

平成十五年発足で、市教育研究所を借用している。現在は習熟者が多くなり、会員が少ない。

(5) ウォーキングクラブ

平成二十一年発足で、年に三回行い二十四回を迎えた。主に市内だが市外も八回行った。大好評だが、高齢化が進んでいる。

(6) 囲碁クラブ

平成二十七年発足（母体の基

武蔵野・三鷹支部

支部長 田原 良敏

昭和五十二年に「北多摩東部支部」として産声を上げた本支部は、来年度に創立四十周年を迎える。この間、平成三年度に本部の了承を得て名称を「武蔵野・三鷹退職校長会」と改称し現在に至っている。

行事としては、会報の発行、研修会・作品展の開催、クラブ活動（囲碁大会）を行っている。

●会報（会員日より）の発行

支部だより

楽会は平成四年）。会員は十三名で、試合形式の他自由形式も取り入れている。時代の変化とともに囲碁のできる方が減っている。

四 謝辞 副会長 黒田貞夫

五 閉会の言葉

※アンケート回答三十六名。貴重なご意見と大変良かったとの評価をいただいた。

（生涯学習部 藤崎武利）

本会の会報は年一回、秋に全会員を対象に原稿用のはがき（二一六字、昨年までは一八〇字）を配布、提出された原稿を整理し印刷原稿の作成・印刷・製本を行なっている。内容は自由、退職後の生活、健康管理の工夫、趣味活動、旅行の体験、ボランティア活動、世相に想うこと等千差万別、会員は発行を楽しみに待っておられる方が多い。

会報の発行は平成四年に創刊号を発行し、今年は二十五号となる。

●研修会の実施

原則として研修会は年二回開催している。内容については会員の希望もあり、年によって変えている。

次に今年の活動を紹介する。

○秋の研修会（11月）

「旧岩崎邸庭園と横山大観記念館」の見学（湯島）

いずれ

も専任講師による
ご案内を
頂く。終
了後「上
野駅ぶん
か亭」で
昼食を兼
ね懇親を深めることができた。

○初春の研修会（2月）

「ドイツリート・ナポリ民謡・
日本歌曲の魅力」

日時 2月18日（土）

午後2時より

会場 武蔵野市立井之頭小学校

（三鷹駅北口、武蔵野税務

署裏 駅から徒歩十分）



岩崎邸で

演奏・講演者

本会会員 宮下 洋 他

※参加ご希望の方は連絡を

●作品展の開催

平成二年六月の研修会「三鷹市内の文化財史跡めぐり」終了後、茶

屋で休息

を取った

時の話で、

親睦を深

める行事

として作

品展の話

題が出る。



作品展

三鷹駅北口から一分の武蔵野芸能劇場を予約。1月に第一回展を開催、以後回を重ね、今年は第二十七回展となる（1月13〜17日）。

●行事の検討

会員数の減少、年齢の高齢化等の実態を含め、今年度会員のアンケートを実施、役員会で主として研修会・クラブ活動等の在り方を中心に検討を行なっている。

強い絆で結ばれた支部

目黒支部長 薩日内 信一

我が支部は、現在、A会員が四十七名、B会員が九十一名という構成で、圧倒的にB会員の数が多い支部である。

なぜB会員が多いのかといえ、それだけ目黒区で勤務した時期の絆が強いということである。

目黒在住のA会員と目黒勤務経験のB会員は、退職校長会の活動を通して、昔からの知り合いのように絆が深まっていく。

もともと、教員の世界は狭いので、どこかで出会っていたり、共通の友人がいたり、目黒の教育について熱く語ったりして、話題には困らない。

従って、目黒支部の活動は、あまり堅苦しい雰囲気がない。総会も、新年研修会も、終わった後の懇親会が楽しみなのである。何を話すという以前に、お互いの元気な顔を見て安心するのである。

昨今、会員数の減少がこの支部でも問題になっているが、校長同士の絆が欠けてきているのではないだろうか。

目黒支部の「絆を深める活動」をいくつか紹介しよう。

①お便り集の発行

広報部が中心となり、年三回の会報の他に、会員全員の近況を載せたお便り集を発行して相互の情報交流を深めている。

②史跡歩こう会

毎年秋に都内の史跡巡りを行っている。目的地までは電車を使うが、あとはしっかり歩いて見学する。今年は、両国界隈を訪問した。



東京都慰霊堂の前で（10月）

③支部作品展

新年には、講師を招いて、研修会と懇親会を行うが、その会場に会員の作品を展示し、会員の力作に触れ、趣味の活動への熱い思いを知る機会としている。

④三間クラブ

会員の要望に応えて三年前に発足したゴルフ同好会である。豊かな時間・爽やか緑の空間・温かな人間の三つの「間」を楽しむことをスローガンとし、年六回活動している。

⑤教育課題研修会

役員・理事は、会員の親睦を図るだけでなく、現職校長を支える意識を常に持ち続けたいと考えている。そこで、現職の小学校・中学校・幼稚園の校長会会長を講師として招き、区教育の現状と課題について年二回学習を重ねている。

⑥納涼会

毎年八月に納涼会を実施し、自由な意見交換をもとに絆を深める機会を続けている。

巨人と鉄人

千葉中部支部長 菅谷 廉之助

我が支部は東京都退職校長会千葉四支部の一つ、船橋、習志野、八千代、佐倉の四市の会員七十七名の小粒な支部です。

しかしながら、会員ひとりひとりが輝くちよつぱり辛い支部だと自負しています。

さて今回は輝く方々の代表として二人の巨人、鉄人をご紹介します。支部だよりとします。

初めは船橋市在住、長門郡司大先輩。

大正九年七月生まれの九十七歳。高齢ながら短歌「地上」を主宰し、その瑞々しさ、他の追随を許さず。

日々会員からの投句に目を通して添削することを日課とす。

新年会、総会後の懇親会では後輩に檄を飛ばし高らかに杯を上げるは我が支部恒例なり。

得意は心を込めて歌う「月の

砂漠」なり。また、命短かし恋せよ乙女の「ゴンドラの歌」なり。

近詠句「これの世に ひとり

残りし感じきり 我より先に 若きら 相次て逝く」

毎晩二合の熱燗を愛す元氣、益々ご健勝であれ！

次なる鉄人は習志野市在住、昭和十一年五月生まれ、

新井由晃氏八十歳。

氏は四十歳より体質改善と自己の弱さ克服のためマラソンに取り組み毎日十km以上走りけり。

退職後の六十一歳より年五、六回の海外フルマラソンに挑戦し、傘寿を迎えた今日迄百回を超え、今なお挑戦中なり。

晴雨にかかわらず毎日十四、五km走り続けるはまさに鉄人なり。

雪の中を草鞋を履いて走りしエピソードあり。

氏はマラソンで海外に行くたびに得意の語学を生かし、日本文化の紹介に努めると共に、彼

の国の自然、文化、国民性などを吸収し、各回ごとに記録に留めり。

その集大成として、平成27年11月文芸春秋社より

「世界マラソン制覇に挑む」―61歳から19年間で97の国際マラソン完走―を発刊。

(千五百円プラス税で一般書店で求められます。乞うご愛読を)

また自慢の喉は「カラオケの帝王」の異名あり。

愛唱歌は三百以上。その歌唱力は、帝王の異名どおり本支部役員の保証付きなり。

近年脳の活性化のため、会所公民館の囲碁会に参加。その実力三段を超ゆ。

日々「今日が最高の幸せ」の生き方を実践している鉄人の前途、更なる幸あれと祈りつつ擲筆。



会員の声

教育研究と教育実践の生活

人とのふれ合いを深めて

日南支部 中野目直明

私は、高校教師のころ、東京都の指導主事に採用され、都立教育研究所に勤務した。

都研の最初の仕事は、全国紙の教育問題の記事を切り抜き、分類して冊子とした。地味で辛抱強く取り組む仕事だが、教育を広く考えるのに役立った。

都研では、教育課題のプロジェクトのまとめ役として研究を行ったり、教員の研修を企画運営する仕事に従事した。新任校長、新任教頭の研修会や、教員研究生の研修の指導、校長長期研修生の指導も記憶に残っている。

その後、武蔵野市立第四中や都立南野高の校長に任命され、教職員、生徒、PTAと学校づくりに努力した。PTAや地域との連携の大切さを肌で感じた。東京都を退職後、縁あって、長岡技術科学大学(国立)に、「教

育社会学」担当の教授として赴任した。教員は、企業出身者や外国の人もいて多彩だった。

東京を離れ、大学の宿舍で生活し、ときどき新幹線で東京と長岡を往復した。学生は、工業専門学校や工業高校出身で、誠実で優秀な学生で、科学技術の専門を勉強し、就職先は全国の一流会社や公務員に100%入っている。私は工業高校教員免許が出るので、教育学を指導した。

長岡技科大を定年退職して、東京八王子にある創価大学に、教職担当の特任教授として勤務した。自宅から通勤できて、講義の他に、演習を担当し、通信教育をお手伝いした。教職希望者が多く、階段教室で数百人の学生の講義をしたり、通信教育で、社会人や主婦の方々と勉強したりしたことが思い出される。思いがけず、長い間教職を続け、生甲斐のある充実した生活だったと思っている。ご支援いただいた諸先輩、出会った人々に感謝したい。

明日に向かって前進を

山梨県 小池敏夫

平成十二年四月十六日に、桃源郷で有名な山梨県笛吹市一宮町に着きました。車窓から見えた景観は、ピンク一色で一面色どられ、すばらしい光景でした。妻の両親から、坪井の家のこれからを見てほしいとの要望があり坪井へ帰った次第です。当地へ来て、現在十六年目です。

地元、地域の方々との信頼関係や友情によって、生きてゆく喜びをひとしお感じています。地元坪井地区の公民館長を頼まれ、継続十二年続けています。毎月、高齢者の為の認知症予防実技指導を講師の方々といっしょに手助けをしています。

また、一宮町の高齢者の組織『福寿会』の会員として皆さんと協力して活動をしています。会員の推薦と選挙によって、一宮町『福寿会』の会長に就任、継続六年間、推進役をしました。

会員の皆さんは、戦前、戦後汗水を流し苦勞を重ねてこられた方々で気持ちの交流はよくできていました。お互いに、これからも生き甲斐をもって元気でいきましょうが合言葉でした。

共通点は、自分ができることを積極的に取り組むようにと、お互いに決意をしいました。

次に、笛吹市の副会長四年、会長二年計六年、市の役員として、六か町村の会員の方々と協力して『魅力ある福寿会づくり』に知恵を出し合ってきました。

年一回、七つの町から二つずつ年間を通して取り組んできた実践活動を発表して、会員の研修にしました。

質疑応答によって、研修会場に出席された皆さんの拍手が出て、会場は盛り上がりました。

家のブドウ栽培は、義父の厳しく温かな指導により、身に付きました。大学ノート12冊の記録は今でも私の大切な宝です。

百寿を過ぎた今、

昔々の話

大田支部 岸田 勝則

私は昭和四十六年に大田区立大森第四中学校・校長を最後に退職した。つれづれの思い出を記してみたい。

昭和二十二年、新学制のもと開校した大森第六中学校に赴任し、職場と住まいが至近なこともあり、二歳年上の吉田校長を補佐して夜遅くまで学校運営に当たった。

その後奉職した御園中学校は当時夜間部があり、昼間蒲田の商店、工場等に勤務する若者たちは勉学に対する意欲がとても旺盛でクラスは活気に溢れていた。

山の手の雰囲気有する大森第六中学校とは雰囲気は違い、当初は学校運営に苦労したが、学校を学びの場としてだけでなく夜学生が昼間働く店主や近隣にお住まいの方々が交流する場としても機能するようにした。

間もなく地域振興の場ともなり、父母の信頼を得、活気に溢れた学校運営が出来た。

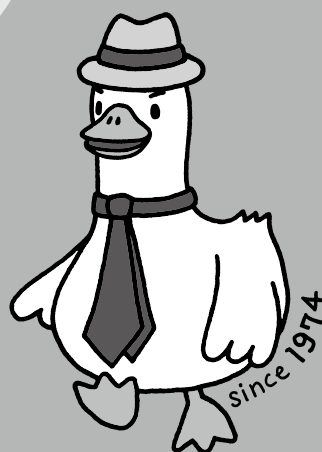
中学校教員人生は、昭和十七年庁立函館中学校から始まり、昼間は漁業、農業、林業で働く若者たちに夜間部で教えた。ただ生きることに皆必死な日々だったが、皆それ以上に懸命に勉強をした。貴重な函館中学校在職五年間の経験が、後年に活きた。

一〇五歳の今も、毎朝の屈伸運動は欠かさず自活できている。健康の秘訣は食事を三度三度美味しく頂く事に尽きる。そして、全てに感謝する事を忘れない。「幼時嬉戲玉河湄紙艇投流競等差今日来看川水面白頭容映白漣漪」

この漢詩は学生時代の恩師と多摩川を訪ねたおり詠まれ、奉職が決まった折に頂き、現在も私の居室に掛けています。

百寿過ぎた今も「初心忘れず」である。

選ぶなら、がんの治療に
幅広く対応した
がん保険。



はじめてダック

通院・入院・抗がん剤・診断一時金

新 **生きるための
がん保険** Days

女性特有の
がんにも
手厚い

新 **生きるための
がん保険** Days レディース

すでにアフラックの
がん保険に
ご契約の皆様は

新 **生きるための
がん保険** Days+

■募集代理店（アフラックは代理店制度を採用しております）

三泉トラスト保険サービス株式会社

〒101-0054 千代田区神田錦町3-11-1

☎0120-357-212 FAX 03-3233-6754

〈引受保険会社〉

「生きる」を創る。

Aflac

◎商品の詳細は「契約概要」等をご覧ください。

アフラック（アメリカンファミリー生命保険会社）
東京第一法人営業部
〒163-0456 東京都新宿区西新宿2-1-1
新宿三井ビル19F
Tel.03-3344-1446 Fax.03-3348-0565

AF広宣課-2015-0015-1506023 4月7日

危機に学ぶ

東京都大島支部 白井良平

一九八六年に起こった三原山噴火による『全島避難せよ!』

から三〇年を経た昨年十一月二十一日に、東京都と大島町による大々的な防災訓練が行われました。空や海から救助のためにやってくるヘリコプターや自衛艦、そしてカーキ色の車両等を目の当たりにしたら、あの時の様子が脳裏に甦ってきました。

その年は、元町港の栈橋で小アジがたくさん釣れたのを覚えています。「今年は、何かおかしくない?」などと話していましたが、その予感的中しました。地震が多く、そのうちに三原山の煙が高く上がるようになり、夜の空が紅く染まり始めたのです。仕事帰りに外輪山の頂上まで車で行くと、内輪山の火口から吹き出す溶岩が花火のようになきれいで、島民も観光客も気分は高揚し、その光景を楽し

んでいました。

我が元町小学校で学芸会が行われていたその日、空震で揺れる体育館の古いドアを背中で抑え、ガタガタという音が子供たちの台詞を消さないように頑張っていました。休憩時間に校長先生のところへ出向き、「かなり揺れも音も激しくなっていますが、このまま続けて大丈夫でしょうか?」とお尋ねすると、「白井先生、あなたも島の人だから分かると思うが、三原山は御神火だからね。」「はあ:~?」

その日の夕方に全島避難が発令され、町民は自衛艦や客船で次々と島を離れたのです。私は乳飲み子を含む三人の娘と妻、そして両親と共に夜中に準備された船で元町港を後にしました。マスコミの容赦ないマイクの突き付けや、兄弟と親戚の家を転々とした日々は辛かったのですが、それよりも赤ちゃんがいるからと千葉の別荘を借りてくれた曾^かての保護者、自分の車を

自由に使っていいからと貸してくれた前任校の先生の優しさが、家族や私にエネルギーを与えてくれました。

九十九里浜の近くの別荘を、そして最寄りの駅に駐車場をお借りしながら始発の電車に乗って都内に出向き、終電で帰宅するという毎日は、苦しいというよりも新しい体験の連続で、今から思えばそれなりに充実していたような気がします。

中央区立泰明小学校の一教室に職員室を開設させていただき、児童の避難先を訪ねるのと並行して、新宿区立戸塚第二小学校に張り付いた日々でした。しかし、島ではリーダーだった子供が保健室登校に陥ったり、おとなしいはずの子が知らない学校で生き生きと活動したりするのを見て、認識を変えることもありました。

全校朝会で校長先生に促され、号令台上から「こんな大きな災害なのに、死者がゼロだったの

はどうしてだろうか?」を話させていただいたのも懐かしい思い出です。

また学校訪問の折り、自分のクラスの子供たちが沢山お世話になっていた小学校の校長先生が「白井先生のクラスの子供たちは、本当に元気がありますねえ。」と笑いながら話されたのを聞きし、「かれら、絶対に暴れていたに違いない。」と恐縮したことも忘れられない一幕でした。

自分の教員生活の中で最も大きな、そして貴重な一か月が、その後の児童観や教育観の基本になっている気がします。



三原山と溶岩流跡

湯島の動静

11月

1 福利厚生部会

7 正副会長会⑨

11 「短歌クラブ」

14 生涯学習部会

15 会報部会

16 総務部会

21 第2回会員研修会

22 「北区王子《北トピア》

28 企画委員会⑨

会計部会

12月

2 全連退との懇談会

5 「品川《全連退事務所》

6 福利厚生部会

6 正副会長会⑩

6 社保合同委員会

6 人材バンク委員会

9 「短歌クラブ」

11 採用前・全体会

13 「於《都教職員研修センター》

13 企画委員会⑩

14 総務部会

15 採用前・Aコース

18 採用前・Cコース

20 会計部会

21 会報部会

26 生涯学習部会

27 「冬季休業・始」

会報部会

1月

5 「冬季休業・終」

6 企画委員会⑪

10 会報部会

11 福利厚生部会

12 正副会長会⑪

12 業務改善検討委員会

13 「短歌クラブ」

15 採用前・Bコース

16 採用前・Bコース

17 生涯学習部会

18 採用前・Bコース

会報部会

18 企画委員会⑫

総務部会

20 人材バンク委員会

23 支部長会③

25 第2回外部人材活用連絡会

「於《都教職員研修センター》

「新年懇親会」

30 福利厚生部会⑩

「於《東京ガーデンパレス》

東京都退職校長会会員の皆様へ

昭和51年4月に東京都退職校長会の会員の皆様の福利厚生の一環として団体契約を頂戴しております。会員ご本人様はもとより、ご家族、ご親戚の方々もご利用いただけます。

事前相談

どんなに些細と思われることでも
お気軽に

ご葬儀

寝台自動車、火葬場
式場、供花・枕花の
お手配

ご法事、
葬儀後の
お手続き

家族葬から音楽葬など、あらゆるご葬儀を承っております。
年中無休・24時間体制、どのようなことでもご相談ください。

フリーダイヤル ☎ 0120-849544 をご利用ください。



経済産業大臣許可(五)第3066号
株式会社

東京都民互助会

東京都民互助会

検索

<http://www.tomin-gojo.co.jp>

〒167-0042 東京都杉並区西荻北5-1-8 TEL.03-3396-7231 FAX.03-3395-8874

(平成28年12月届出現在)

物故者										謹んでご逝去を悼み ご冥福をお祈り申し上げます									
氏名	年月日	支部名	校種	年齢	頁	氏名	年月日	支部名	校種	年齢	頁	氏名	年月日	支部名	校種	年齢	頁	氏名	年月日
村山 俊幸	28.1.1	千葉西	小	92	115	八巻 知雄	28.10.29	北多摩北	小	87	76	浦辺 満明	28.10.27	練馬	中	88	40	松尾 英昭	28.10.26
津久井宏朔	28.1.3	神奈川	小	96	138	吉野 裕久	28.10.30	府中	中	85	88	日食 和雄	28.10.28	日南	中	77	70	苗村るみ子	28.10.22
中村 廣徳	28.5.7	埼玉	高	96	125	妹尾 雅夫	28.11.5	北多摩北	小	84	77	西村 淳	28.11.11	府中	中	82	87	山崎 哲男	28.10.14
村田 允	28.7.28	埼玉	小	76	125	渡辺 淑夫	28.11.13	日南	中	87	69	根岸 敏夫	28.8.27	文京	小	86	4	奥田 實	28.11.16
根岸 敏夫	28.8.27	文京	小	86	4	小林 重信	28.11.14	千葉中	小	89	112	田中 勝美	28.9.2	新宿	小	97	3	鮎澤 好夫	28.11.19
田中 勝美	28.9.2	新宿	小	97	3	奥田 實	28.11.16	板橋	小	88	37	久保 勝平	28.10.1	葛飾	小	88	51	高橋 定一	28.10.4
久保 勝平	28.10.1	葛飾	小	88	51	鮎澤 好夫	28.11.19	目黒	中	66	12	諸井 眞平	28.10.1	練馬	中	91	40	三木 宗治	28.10.5
諸井 眞平	28.10.1	練馬	中	91	40	皿井 治	28.11.20	荒川	小	93	34	高橋 定一	28.10.4	葛飾	小	99	51	大田千代繁	28.10.5
高橋 定一	28.10.4	葛飾	小	99	51	若杉 隆	28.12.4	杉並	小	70	29	堀井 太郎	28.10.10	千葉西	小	92	115	武田 キミ	28.10.6
三木 宗治	28.10.5	日南	養	82	70	豊島 武夫	28.12.7	足立	小	87	48	長谷川 央	28.10.10	埼玉	中	84	122	長谷川 央	28.10.10
大田千代繁	28.10.5	練馬	中	88	46	若杉 隆	28.12.4	杉並	小	70	29	中島 武男	28.10.11	杉並	小	95	25	中島 武男	28.10.11
堀井 太郎	28.10.10	千葉西	小	92	115	豊島 武夫	28.12.7	足立	小	87	48	長谷川 央	28.10.10	埼玉	中	84	122	長谷川 央	28.10.10
武田 キミ	28.10.6	大田	小	100	13	若杉 隆	28.12.4	杉並	小	70	29	中島 武男	28.10.11	杉並	小	95	25	中島 武男	28.10.11
中島 武男	28.10.11	杉並	小	95	25	豊島 武夫	28.12.7	足立	小	87	48	長谷川 央	28.10.10	埼玉	中	84	122	長谷川 央	28.10.10
長谷川 央	28.10.10	埼玉	中	84	122	若杉 隆	28.12.4	杉並	小	70	29	中島 武男	28.10.11	杉並	小	95	25	中島 武男	28.10.11
中島 武男	28.10.11	杉並	小	95	25	豊島 武夫	28.12.7	足立	小	87	48	長谷川 央	28.10.10	埼玉	中	84	122	長谷川 央	28.10.10
長谷川 央	28.10.10	埼玉	中	84	122	若杉 隆	28.12.4	杉並	小	70	29	中島 武男	28.10.11	杉並	小	95	25	中島 武男	28.10.11
中島 武男	28.10.11	杉並	小	95	25	豊島 武夫	28.12.7	足立	小	87	48	長谷川 央	28.10.10	埼玉	中	84	122	長谷川 央	28.10.10
長谷川 央	28.10.10	埼玉	中	84	122	若杉 隆	28.12.4	杉並	小	70	29	中島 武男	28.10.11	杉並	小	95	25	中島 武男	28.10.11
中島 武男	28.10.11	杉並	小	95	25	豊島 武夫	28.12.7	足立	小	87	48	長谷川 央	28.10.10	埼玉	中	84	122	長谷川 央	28.10.10
長谷川 央	28.10.10	埼玉	中	84	122	若杉 隆	28.12.4	杉並	小	70	29	中島 武男	28.10.11	杉並	小	95	25	中島 武男	28.10.11
中島 武男	28.10.11	杉並	小	95	25	豊島 武夫	28.12.7	足立	小	87	48	長谷川 央	28.10.10	埼玉	中	84	122	長谷川 央	28.10.10
長谷川 央	28.10.10	埼玉	中	84	122	若杉 隆	28.12.4	杉並	小	70	29	中島 武男	28.10.11	杉並	小	95	25	中島 武男	28.10.11
中島 武男	28.10.11	杉並	小	95	25	豊島 武夫	28.12.7	足立	小	87	48	長谷川 央	28.10.10	埼玉	中	84	122	長谷川 央	28.10.10
長谷川 央	28.10.10	埼玉	中	84	122	若杉 隆	28.12.4	杉並	小	70	29	中島 武男	28.10.11	杉並	小	95	25	中島 武男	28.10.11
中島 武男	28.10.11	杉並	小	95	25	豊島 武夫	28.12.7	足立	小	87	48	長谷川 央	28.10.10	埼玉	中	84	122	長谷川 央	28.10.10
長谷川 央	28.10.10	埼玉	中	84	122	若杉 隆	28.12.4	杉並	小	70	29	中島 武男	28.10.11	杉並	小	95	25	中島 武男	28.10.11
中島 武男	28.10.11	杉並	小	95	25	豊島 武夫	28.12.7	足立	小	87	48	長谷川 央	28.10.10	埼玉	中	84	122	長谷川 央	28.10.10
長谷川 央	28.10.10	埼玉	中	84	122	若杉 隆	28.12.4	杉並	小	70	29	中島 武男	28.10.11	杉並	小	95	25	中島 武男	28.10.11
中島 武男	28.10.11	杉並	小	95	25	豊島 武夫	28.12.7	足立	小	87	48	長谷川 央	28.10.10	埼玉	中	84	122	長谷川 央	28.10.10
長谷川 央	28.10.10	埼玉	中	84	122	若杉 隆	28.12.4	杉並	小	70	29	中島 武男	28.10.11	杉並	小	95	25	中島 武男	28.10.11
中島 武男	28.10.11	杉並	小	95	25	豊島 武夫	28.12.7	足立	小	87	48	長谷川 央	28.10.10	埼玉	中	84	122	長谷川 央	28.10.10
長谷川 央	28.10.10	埼玉	中	84	122	若杉 隆	28.12.4	杉並	小	70	29	中島 武男	28.10.11	杉並	小	95	25	中島 武男	28.10.11
中島 武男	28.10.11	杉並	小	95	25	豊島 武夫	28.12.7	足立	小	87	48	長谷川 央	28.10.10	埼玉	中	84	122	長谷川 央	28.10.10
長谷川 央	28.10.10	埼玉	中	84	122	若杉 隆	28.12.4	杉並	小	70	29	中島 武男	28.10.11	杉並	小	95	25	中島 武男	28.10.11
中島 武男	28.10.11	杉並	小	95	25	豊島 武夫	28.12.7	足立	小	87	48	長谷川 央	28.10.10	埼玉	中	84	122	長谷川 央	28.10.10
長谷川 央	28.10.10	埼玉	中	84	122	若杉 隆	28.12.4	杉並	小	70	29	中島 武男	28.10.11	杉並	小	95	25	中島 武男	28.10.11
中島 武男	28.10.11	杉並	小	95	25	豊島 武夫	28.12.7	足立	小	87	48	長谷川 央	28.10.10	埼玉	中	84	122	長谷川 央	28.10.10
長谷川 央	28.10.10	埼玉	中	84	122	若杉 隆	28.12.4	杉並	小	70	29	中島 武男	28.10.11	杉並	小	95	25	中島 武男	28.10.11
中島 武男	28.10.11	杉並	小	95	25	豊島 武夫	28.12.7	足立	小	87	48	長谷川 央	28.10.10	埼玉	中	84	122	長谷川 央	28.10.10
長谷川 央	28.10.10	埼玉	中	84	122	若杉 隆	28.12.4	杉並	小	70	29	中島 武男	28.10.11	杉並	小	95	25	中島 武男	28.10.11
中島 武男	28.10.11	杉並	小	95	25	豊島 武夫	28.12.7	足立	小	87	48	長谷川 央	28.10.10	埼玉	中	84	122	長谷川 央	28.10.10
長谷川 央	28.10.10	埼玉	中	84	122	若杉 隆	28.12.4	杉並	小	70	29	中島 武男	28.10.11	杉並	小	95	25	中島 武男	28.10.11
中島 武男	28.10.11	杉並	小	95	25	豊島 武夫	28.12.7	足立	小	87	48	長谷川 央	28.10.10	埼玉	中	84	122	長谷川 央	28.10.10
長谷川 央	28.10.10	埼玉	中	84	122	若杉 隆	28.12.4	杉並	小	70	29	中島 武男	28.10.11	杉並	小	95	25	中島 武男	28.10.11
中島 武男	28.10.11	杉並	小	95	25	豊島 武夫	28.12.7	足立	小	87	48	長谷川 央	28.10.10	埼玉	中	84	122	長谷川 央	28.10.10
長谷川 央	28.10.10	埼玉	中	84	122	若杉 隆	28.12.4	杉並	小	70	29	中島 武男	28.10.11	杉並	小	95	25	中島 武男	28.10.11
中島 武男	28.10.11	杉並	小	95	25	豊島 武夫	28.12.7	足立	小	87	48	長谷川 央	28.10.10	埼玉	中	84	122	長谷川 央	28.10.10
長谷川 央	28.10.10	埼玉	中	84	122	若杉 隆	28.12.4	杉並	小	70	29	中島 武男	28.10.11	杉並	小	95	25	中島 武男	28.10.11
中島 武男	28.10.11	杉並	小	95	25	豊島 武夫	28.12.7	足立	小	87	48	長谷川 央	28.10.10	埼玉	中	84	122	長谷川 央	28.10.10
長谷川 央	28.10.10	埼玉	中	84	122	若杉 隆	28.12.4	杉並	小	70	29	中島 武男	28.10.11	杉並	小	95	25	中島 武男	28.10.11
中島 武男	28.10.11	杉並	小	95	25	豊島 武夫	28.12.7	足立	小	87	48	長谷川 央	28.10.10	埼玉	中	84	122	長谷川 央	28.10.10
長谷川 央	28.10.10	埼玉	中	84	122	若杉 隆	28.12.4	杉並	小	70	29	中島 武男	28.10.11	杉並	小	95	25	中島 武男	28.10.11
中島 武男	28.10.11	杉並	小	95	25	豊島 武夫	28.12.7	足立	小	87	48	長谷川 央	28.10.10	埼玉	中	84	122	長谷川 央	28.10.10
長谷川 央	28.10.10	埼玉	中	84	122	若杉 隆	28.12.4	杉並	小	70	29	中島 武男	28.10.11	杉並	小	95	25	中島 武男	28.10.11
中島 武男	28.10.11	杉並	小	95	25	豊島 武夫	28.12.7	足立	小	87	48	長谷川 央	28.10.10	埼玉	中	84	122	長谷川 央	28.10.10
長谷川 央	28.10.10	埼玉	中	84	122	若杉 隆	28.12.4	杉並	小	70	29	中島 武男	28.10.11	杉並	小	95	25	中島 武男	28.10.11
中島 武男	28.10.11	杉並	小	95	25	豊島 武夫	28.12.7	足立	小	87	48	長谷川 央	28.10.10	埼玉	中	84	122	長谷川 央	28.10.10
長谷川 央	28.10.10	埼玉	中	84	122	若杉 隆	28.12.4	杉並	小	70	29	中島 武男	28.10.11	杉並	小	95	25	中島 武男	28.10.11
中島 武男	28.10.11	杉並	小	95	25	豊島 武夫	28.12.7	足立	小	87	48	長谷川 央	28.10.10	埼玉	中	84	122	長谷川 央	28.10.10
長谷川 央	28.10.10	埼玉	中	84	122	若杉 隆	28.12.4	杉並	小	70	29	中島 武男	28.10.11	杉並	小	95	25	中島 武男	28.10.11
中島 武男	28.10.11	杉並	小	95	25	豊島 武夫	28.12.7	足立	小	87	48	長谷川 央	28.10.10	埼玉	中	84	122	長谷川 央	28.10.10
長谷川 央	28.10.10	埼玉	中	84	122	若杉 隆	28.12.4	杉並	小	70	29	中島 武男	28.10.11	杉並	小	95	25	中島 武男	28.10.11
中島 武男	28.10.11	杉並	小	95	25	豊島 武夫	28.12.7	足立	小	87	48	長谷川 央	28.10.10	埼玉	中	84	122	長谷川 央	28.10.10
長谷川 央	28.10.10	埼玉	中	84	122	若杉 隆	28.12.4	杉並	小	70	29	中島 武男	28.10.11	杉並	小	95	25	中島 武男	28.10.11
中島 武男	28.10.11	杉並	小	95	25	豊島 武夫	28.12.7	足立	小	87	48	長谷川 央	28.10.10	埼玉	中	84	122	長谷川 央	28.10.